

世界と日本の未来 歴史×経済で読み解く

井沢元彦 中原圭介 PHP研究所

(はじめに)

本書では日本、中国、韓国、欧米の現状と未来について経済アナリストとしての私の立場と歴史作家としての井沢さんの立場の双方から知見を融合させ乍ら物事の本質を見据えた経済的視点と科学的かつ論理的に分析された歴史的視点の双方からのアプローチによって今何が起きているか、これから何が起ころのかを読み解き混沌とする世界の中で日本が目指すべき道は何かを提言。

「井沢元彦」1954年名古屋市生まれ作家、早稲田大学法学部卒、TBS報道局(政治部)記者時代に第26回江戸川乱歩賞を受賞、週刊ポスト連載中の「逆説の日本史」はベストセラー&ロングセラー。

「中原圭介」1970年茨城県土浦市生まれ、慶応義塾大学文学部卒、経済や経営だけでなく歴史や哲学、自然科学等幅広い視点から経済や消費の動向を分析その予測の正確さには定評があり「最も予測が当たる経済アナリスト」として評価も高くファンも多い。

{ 第一章 歴史や経済で「世界激変を読み解く」 }

歴史学、経済学の専門家は「歴史・経済を知らない！」

* 真実を読み解く視点＝物事の本質とは何か (中原)

「大局を読む」際に最も必要な学問は「哲学と歴史」だと思います。

哲学は「真理とは何か」つまり本質を問う歴史に於ける最高の叡智です。

哲学を学べば全ての考え方の源流を知ることもしる。

* 裸の王様になると真実を見る目が曇る (井沢)

必ず自分の目で確かめ真実かどうか裏を取る必要がある。現在でもバカ將軍と思っている歴史学者もいるが徳川綱吉の「生類憐みの令」は戦国の余韻が残った大變殺伐とした世の中での人命尊重と云う意識を日本に定着させた画期的なもの。当時の人間になり切って考えると真実が見えてくる～関ヶ原の戦いが僅か1日で終わった、何故あっさり1日で決着がついたのか、それは光成が負ける事を全く考えずに最後の最後まで兵を投入し、気が付けば護衛も馬もなく徒歩で逃げて、佐和山城や大阪城迄逃げ切れなかった、光成は官僚であり軍人ではなかったという事。

* 自然科学ではあり得ないことが経済学では起こる (中原)

～需要曲線と供給曲線のグラフは「二つの曲線が交わった所で

P 1

価額・数量が均衡する」は高校時代に見て瞬間におかしいと、それはフロー・時間の流れがないこと。経済学は原因と結果を転倒する、理屈をこねる、おかしな学問。デフレと不況の捉え方でもデフレが原因となって不況になると云うのが常識、しかしデフレやインフレは「原因」ではなくあくまで「結果」であり好況の結果インフレにもデフレにもなる場合がある。米国のバーナキンは世界大恐慌の時だけの米国を見て「デフレ＝不況」と結論づけした、これが今、日本の経済政策にもおかしな影響を及ぼしている、大事なのは景気を良くすることです。

{ 2000 年世界が激変した }

～中国のWTO加盟で世界の真のグローバル化へ（中原）当時中国の人口ざつと 13 億人が安い労働力として資本主義社会に参入によりそれまでの先進国で「良質な雇用」と呼ばれていたものが失われ、要するにグローバル化、先進国の人々の生活水準の向上に結びつかず雇用が失われ、むしろ収入が下がったりしたが多くの経済学者はこういう状況を分かつとしないで「インフレで名目成長率を引き上げればいい」と本末転倒な議論がまかり通っている。

「デフレが不況を呼ぶ」の誤りは歴史が証明した 2011 年時点で米国政府の公表数字～国民の 3 人に一人が貧困層及び貧困予備軍しかし 2014 年以降個人消費は 3～4% の水準で伸びそれは原油価格の下落で庶民の実質所得が上がり 2015 年は実質賃金の伸び率は戦後最大つまり原油価格の値下がりでも低インフレでも消費が伸びることが「歴史」によって証明された。

* 「権威の意見が鵜呑みにされている」という愚（井沢）

～米国こそ世界の中心であり、何でもスタンダードになると考えている。

* 小さな政府にするほど格差は拡大する（中原）＝米国はズーと小さな政府を目指し、逆にヨーロッパはどちらか言えば大きな政府でどちらも行き過ぎは良くない特に 2000 年以降は小さな政府にするほど格差拡大、トランプが大統領になった原因は国民の共和党主流に対する失望でもあった歴史的に見て中間層が病弊する国は衰退している～ローマ帝国、ギリシャのポリスもしかり。中間層を復活させるには基本的にはグローバル経済が世界全体に広がり賃金の低い国がなくなる事。

{ 第二章 アベノミクスを歴史×経済で検証する }

* デフレ脱却の虚妄に騙されるな、インフレは庶民の敵（中原）

～2000 年以前の世界経済を百年ほど遡ると実はデフレ時の 9 割近くが好況だった（ミネアポリス連邦準備銀行の二人のエコノミストが 2004 年に論文発表）又、B I S も 2015 年デフレと不況に因果関係はないとのレポート。 P 2

日本の個人消費がバブル以降 2 年連続マイナスになったのは 2 回 2008~9 年のリーマンショックと 2014~5 年この原因の大半は円安による輸入インフレで消費税の増税よりも「輸入インフレ」の方が実質賃金の低下に大きく関った
* 為替は 1 ドル 100 円あたりが妥当 (中原)

~2011 年頃 1 ドル 70 円台の時に輸入品が凄く安く消費も伸び庶民に恩恵の一方で輸出企業は非常に辛かった 2014 年以降 120 円台になり企業は儲け過ぎ (2016 年 3 月期迄 2 期連続で史上最高益更新) 庶民の生活は苦しくなった。

* 何故企業は莫大な金を溜め込むのか (中原)

~政府が企業に給料を上げるように要請するのは資本主義のルールを逸脱。日本企業は今最も心配しているのはこれから日本の人口が減っていく事それに銀行がアテにならないのでお金を溜め込み従業員の首は切りたくないから。

* マイナス金利が不動産市場を歪ませている (中原)

~貸家の建設バブルが起きているが既に国内の空き家は 820 万戸その半分は貸家で将来供給過剰に拍車がかかり値崩れを起こして不良債権の増加となり、長期的にはかなり危ない見通しとなる、本来経済政策や金融政策は国民生活を悪化させない為にどうすればよいかという視点が原点にある筈。

{ 日本経済への処方箋はあるか }

* このままでは 10 年以内に財政危機が訪れる (中原)

~構造改革して新産業を作れ~競争力の源泉となる生産性を高めるしかない、海外に打って出られるような新産業が 2~3 あれば日本経済の活気は全然違ってくるでしょう、但し全て官僚任せにすると必ず失敗する、方向づけと予算付けだけを国が行い、後は民間の自由に任せる。

* インフレが社会不安を招いてきた~多くの暴動の原因はデフレの時には全く起きていない、インフレの時に起きている。

「飢え」が庶民を怒らせる (井沢) 明治維新の原因もインフレだった、幕末に物価がメチャクチャ上がったが幕府は金交換比率を金 1 に対して銀 4 と計算し海外では金 1 に対して銀 16 の状態で日本は開国した為に外国人は安い銀を日本に持ってきて日本の金をドンドン持ち出した為文政小判と云う非常に質の悪い小判を出し大インフレになった。(金の保有高は当時世界一だった?)

* 規制緩和は観光・医療・農業をセットで (中原)

日本の病院は患者をあくまでも患者として扱っているが「お客さん」の発想に変え日本ならでの医療を海外の中間所得層以上の人にも提供し同時に観光もしてもらい、日本の美味しい農作物も食べて頂き、リピーターになって頂く等の戦略を考えることが重要です~民間企業による農業経営を可能にするべきだ~今でも民間企業が農業法人に出資は「株は 50%未満」

の岩盤規制では海外との競争は勝負にならない。

- * 規制が技術を後退させることもある（井沢）～江戸時代の船は1本マストばかり鎖国して海外渡航も海外貿易も駄目だから遠洋航海はできない船が1本マストだった。日本が鎖国している間に欧米では蒸気船を開発製造して世界を支配し貿易し、お金を荒稼ぎして、日本はドンドン置かれていった。

{ 第三章 中国は限界に近づいている }

- * 一党独裁の国・中国の未来を読み解く～習近平は米国より宗教を恐れている。中国に経済と云う言葉はなかった（井沢）経済と云う言葉自体日本人が「経世済民」から作った造語です、中国は明の時代あるいはそれ以前から朱子学と云う哲学があり官僚はその考えに則って動いてきた、朱子学はある意味で経済の敵でありそれが西洋と全く違うところであることに気づくべきです。
- * 習近平は国家主席と云うより皇帝（中原）
～昨今は汚職の撲滅に力を注いでいますが政敵をつぶすという意味合いが大きい、狙われているのは江沢民派や胡錦濤派です。
- * 権力を渡すと命すら危うくなる（井沢）
～中国のような前近代的な一党独裁国家では近代以前の常識がまかり通っている、当の中国人が民主主義を分かっていない。
- * 中国の王朝は殆どが農民と宗教によって滅ぼされた（中原）
～その農民反乱は宗教と結びついている～今中国でキリスト教が急速に伸びていることがすごく気になっています、以前新興宗教の法輪功が中国当局に弾圧されたのは一般庶民と宗教が結びつくことを当局が物凄く恐れたから。
- * 朱子学が中国の正確を決定づけた。（井沢）～朱子学と共産党のコンセプトは同じで支配層は「選ばれたエリートが愚かな大衆を指導しなきゃいけない」「愚かな大衆に自由を与えろくなくことはしない」と云う意識だから本来中国は民主主義が育ちにくい土壌。
- * 中国では貧困層がキリスト教に走る（中原）今の世界経済の何が問題か・・・これまで比較的豊かだった中間層の人たちが減り、下層が増えて落ちこぼれている、中国でも同じ変化が起きて後者がキリスト教の信者となって地下の教会に潜って礼拝、その数は恐らく1億を超えている、かなりの勢力です。

{ 立ち遅れたままの中国では自壊する }

～欧米と中国の間に横たわる時間軸のずれ（中原）～中国はいずれチベットで痛い目に合う、彼らが今チベットで行っていることは正に「偽チベット」で、ドラマを追いつき共産党の息のかかった法王をでっち上げて尚且つ民族浄化をして中国の領地に取り込もうとしている。

かつてスターリンがやったことと同じでグルジア（現ジョージア）等と同じでソ連邦の崩壊と共に大混乱が生じた、将来的に中国にも同じ混乱がのしかかってくる。経済の開放を進める一方朱子学的な古い体制を維持しようとする中国は国内統治に失敗し大混乱をきたす恐れが大いにあります。

- * 「一人っ子政策」廃止の理由とは？～2012年から労働人口が減っているから日本より20～30年遅れて高齢化がやってくる、社会保障面では殆ど無いに等しいためにどうしても労働人口を増やして税収を増やす必要がある。

{ 日本は中国とどう付き合うか } * 巨大投資の付けに苦しむ中国（中原）

～リーマンショック後に約40兆円の投資を実行、不況に直面した世界各国は手放して絶賛したがこれは明かに過剰だった。例えば鉄鋼の国内需要7億トン程度が設備投資で11～12億トン生産体制に自動車も国内販売台数年25百万台程で5千万台も作ってしまった或いはショッピングセンターやマンションも地方に行くとゴーストタウンのような場所が沢山ありこれらは4兆元投資の副作用です。あと10年も経てば結果が出ると思います。

問題は民衆の不満を抑え込めるかどうかです。

- * 海外を知る中国人に変革を期待（井沢）～中国が北朝鮮と違って凄くいい点は国を開いているという事、国民が海外に行くことも許している、そういう中国と日本は貿易だけキチンとしたり、文化・スポーツで交流を進めると少なくとも戦争にはなりにくい。
- * 安い労働力という武器は消えた（中原）中国は今も昔も帝国のままで何も変わっていないので民族的には分かり合えない、価値観も違う「政冷経熱」等と云い強く結びついているのは経済面だけ米中も同じで中国は米国から凄く外貨を稼いでいる、だから両国で戦争できる訳がない、これからの中国は安い労働力でなく新しい付加価値を追求する方に行く必要がある。
- * プライドをくすぐりつつ日本のODA（政府開発援助）の事実を伝えよう
～日本は中国に膨大なODA供出をしてきた、でも中国共産党はそれを言わない、北京市の水道・空港・重慶市のモノレールも日本のODAで作られた物中国共産党はそれを国民に知らせない、だから日本はそういう事実をもっと宣伝した方が良い、但し彼等には「自分達こそ世界一の民族である」と云うプライドがありそれをくすぐる様に「世界一の民族がそれでいいんですか」「一流国の中で民主主義体制が整っていないのは中国だけですよ」と云う等の「褒め殺し」が中国に訴えかけるコツ。
- * 最大の懸案事項は膨大な民間債務（中原）
～2016年3月（国際決済銀行データ）GDP比200%超、日本も1980年代の後半バブル期には200%超、その約4年後にバブル崩壊した。

中国経済も 5~10 年スパンでは懸念がある。

東京オリンピック・パラリンピックが開かれる 2020 年頃の経済は世界的に悪くなっていると思う、中国だけでなく米国・ヨーロッパも。

{ 第四章 朱子学と経済不況が韓国を苦しめる }

*何故反日か?~韓国と北朝鮮の未来を読み解く(井沢)

反日感情は消える事はない日韓の間には歴史的認識が横たわりその最大要因は朱子学つまり外国を野蛮なもの自分達こそ優れた民族との思い込み、日韓が歴史問題で折り合うことは不可能、日本による占領統治という痛みの感情や歴史を忘れることは「親日派は悪人」であり覆すことは韓国特有の「恨」の思想・文化を忘れることにつながる。

*反日感情の悪さの一因は韓国経済の悪さにある(中原)

先ず大きいのが格差、生活水準の悪化と家計の債務は何年も連続で過去最高を更新、発端はソウルの住宅バブル崩壊、日米韓の安全保障上のつながりから弱り目の韓国を切り捨てることは賢明ではありません。

*大統領のファミリー汚職はいつまで続くのか(井沢)

~韓国の政治は不安定~7代続けて息子や娘、親戚、実弟のような親族が汚職で例外なく捕まっている、パク・クネは表向き女性のトップを選んだから日米より進んでいるは建前で本音は親族がいないから売りになった。ところが家族同然の人がいて便宜を図ったから余計に裏切られた怒りで国民は憎さ百倍といった感じ。

{ 第五章 揺れるヨーロッパ 日本に接近するロシア }

*通貨ユーロは失敗だった~生産性・価値観の違う国の通貨統合は困難が伴う(中原) 生産性の高い国は輸出で儲けられ低い国にしわ寄せが高い失業率となって表れている。英国はズーと経常赤字の国で海外からの投資で経済が持っていて EU 離脱は海外からの投資減少で得策ではない。

仏は農業国なのでユーロ安の恩恵はあまり受けていません、イタリアと反 EU 反ユーロの政党人気が高まっている。

*日露は協力し合えるか、トランプ政権と協力したいロシア

トランプ不動産ビジネスとロシアは深い繋がりがあるから先の米国大統領選で諜報機関を使って民主党陣営のメールを暴露し対露強硬派のクリントンに大きなダメージを与えた、米国にとって一番怖いのは中露が組むこと、かつて中央アジアは露寄りだったが今は軒並み中国寄りでロシアは面白くない。

*日本とロシアは協力し合える余地がある(井沢) ロシアにとって至上命題とは不凍港を確保する事、シベリア開発することでパートナーに

日本を選ぶとロシア経済にとっていいし日本も北方の脅威がなくなる。
シベリアは資源の宝庫だから日本の技術を投入すればお互いにとってプラス。

* 北方領土はロシアにとってカード（中原）

北方領土問題はロシアにとって日本から経済支援を引き出す唯一のカードでサハリンやシベリアには膨大なエネルギー資源が眠っていて日本とロシアが経済的に組むメリットは大いにある。北方領土問題は複雑でロシア人が戦後ゾーと住んでいる事実がある一方で戦前に住んでいた日本人にとっては故郷ですから難しい問題です。最後の手段として樺太を放棄した様に北方領土を放棄しロシアとの恒常的平和条約や漁業権を得る等うまい手があれば、もっとしたたかさをもって臨むべきだ。

{ 第六章 エネルギーが常に紛争の種になる }

* 国際紛争の背景に「石油欲しさ」あり（井沢）

日本が対米戦争に踏み切ったキッカケの一つは米国が原油の対日輸出を止めたこと、そもそも対中戦争の最中に更に米英仏蘭と開戦する等とんでもない話、それだけ国家にとってのエネルギー獲得は死活問題。

* EV(電気自動車)の普及で石油の需要も減少（中原）

先進国の原油消費の半分は自動車の燃料しかも今後の技術革新が進めば効率は更によくなる（プリウスの燃費は十数キロから今や30km）原油価格の値下げはシェールオイルと中国が一時期的ように爆買いしなくなった事による。

* 原油安はアベノミクスにとって「悪」（中原）～アベノミクスでは先に円安で実質所得が輸入品の値上がりで下がり 2013 年以降大幅に下がってしまった。又エネルギー安はデフレで「悪」インフレ2%に到達しない等と言いつつ原油安を挙げ本来良いことを悪い事とみなし完全に価値観の転倒。

* 産油国が直面する財政難リスク～供給側の国民にとって死活問題で IMF の試算では今の原油価格が続けばサウジアラビアの財政はあと5～6年で破綻する新しい皇太子が実権を握って2016年には約1兆8千億円の国債も発行、太陽光だ、新しい産業だと盛んに言い出している。ベネズエラやナイジェリア等の産油国も同様で OPEC には尻に火がついている国がかなり多い、つまり原油価格の値下がりには富が産油国の庶民から先進国の庶民に移転した事を意味。

* 中国の原発リスクにどう立ち向かうか、もう北京は住める街ではない（中原）大気汚染は深刻で中国は原発にシフト、問題はちゃんと建設できるかどうか上海沿岸に作って事故が起きると日本が危険になるので日本が安い価格で作ってあげる方が安心。もう日本に原発はいらない、福島第一原発の事故で原油や天然ガスよりコストが巨大で高いということ。

* 「原発は安全とは言い切れない」という正論が排除されてきた（井沢） P 7

日本人は言霊信仰を持ち真実を口に出すことが出来なくなり「悪い予測に対する事前準備・危機管理ができない」弊害を自覚すること。

*世界は水資源の確保に苦勞している～安価で海水を淡水化できれば（井沢）
人類が生活で使える真水はせいぜい1～2%かつてケネディ大統領は人類が目指すべき目標として月面に人を送る事と海水の淡水化を挙げ、前者は達成したが後者は50年後の今も達成できていない。

*日本が産油国ならぬ「産水国」になる（中原）
～今のところ日本メーカーが作ったろ過膜を通す方法が最も有力ですがエネルギーが必要だし技術としては完璧ではない、これが出来れば農業用水の問題はほとんど解決、日本は「産水国」になるポテンシャルを持っている。
原油より水が足りない世界が来る可能性がズーと高い。

{ 第七章 日本が発展するにはどうしたらいいか }

*なぜ日本人はこんなにも勤勉なのか～日本の会社・働き方・教育の未来を読み解く～日本人が持つ「禅」の精神（井沢）

山本七平さんの名著「日本資本主義の精神」で日本人が勤勉なのはインドの達磨大師がシルクロードを通過して中国・韓国に伝えたが日本に入って見事に感化された、禅とは日常のあらゆる事をまじめにやる修行でエリートにも便所掃除或いは苦節○十年という職人

*日本人は生涯に亘って働いた方が幸福～高齢者がリタイヤせず働く事は健康でその分社会的ケアの費用も掛からずそれは今後の日本にとっても大事な事

*規制緩和によって農業は儲かる産業になりうる（中原）

～国民皆年金制度は昭和36年にできて当時の寿命68歳支給開始が60歳平均支給8年、今の平均寿命は84歳と16年延びた、同様に8年間年金を貰うとすれば支給開始は76歳に繰り上げてもいい事になる、更に定年後も働きたい人が増えている。現在農業就業者平均年齢66、8歳で70代80代の人から見れば50代60代は未だ若造で退職年齢を75才に引き上げても全く問題はない、高齢者には週2～3日出社して若い人達の技術指導は生甲斐になり若い人の雇用を奪うことにもならない、農業の様に年長者が現役でバリバリ働き死ぬ間際まで仕事して生涯原役という世界があるそういう社会が健全なので、多くの日本人が70歳まで働けば年金破綻せず日本の社会保障への安心感が増し若い人にも結婚して子供を作る人が増える気がします。

戦国時代の大名第一号の北条早雲は人生50年と言われた時代にスタートを切った年齢は62歳であったとも言われている。

又日本至上初めて国土の正確な地図を作成した伊能忠敬は測量を始めたのは55歳の頃からで17年かけて作成した人物。

「女性の社会進出を促すには？」～子供を産み易い環境づくりが急務（中原）

日本が少子化に転じた要因は1986年施行の男女雇用機会均等法により働く女性が増え、結婚しない女性が増え晩婚化が進んでしまい、更にタイミング悪くバブル崩壊で子育ては大変という認識が日本全体に広がった。

出生率を2.0に回復させたフランスでは子育て支援を中心に家庭向けの政府支出を大幅に増やした。子育て支援が手厚い国ほど出生率が回復の傾向にある、国だけでなく大企業が率先して社内に保育所を作るべき。

{ 雇用は本当に流動化すべきか } ~転職して条件が良くなる事は少ない

~ゆとり教育の弊害でもあり「集団」から「個」を重視する教育の反動から「自分らしい生き方」という考え方が歪んだ形で若者の間に定着してしまったが家庭での親の教育も忍耐や我慢といったことを子供にしっかりと教えられる親が増えていることは気にかかる。

{ 日本人はもっと歴史を学べ }

* 学校教育に足りないのは歴史・宗教・語学（井沢）日本人はもっと歴史を勉強する必要がある、そうしないと国際社会で通用しない同じ過ちを繰り返す恐れもある。日本の歴史は約2千年米国の約10倍、しかし米国は歴史教育には時間をかけている、又世界にはいろんな宗教がありそれをもとに働いている人がいることを学ぶ必要がある、相互理解や国際親善の為にも宗教を理解することは必須、そして語学教育でもっと話せるようにしなければ・・・

* 「日本人とは何者か」に答えられない日本人（中原）

今の学校教育ではかなり歴史が軽視されている。

* 今のグローバル経済化では経済学が机上の空論に近くなっている。

~歴史を学ぶと経済を見るうえでも非常に役に立つ。

{ 点と点を結びつけるのが教育だ }

~明治維新の原点はコロンブスにあった（井沢）~幕末の薩摩藩の活動の根源はコロンブス迄遡る、薩摩は火山灰台地で稲作ができなくて飢饉になるとバタバタと人が死んだ、ところがコロンブスがサツマイモを世界に広めた、肥料も水もいらない痩せた土地でも出来る栄養的にもバランスがいい唯一の欠点は寒い地方ではできない享保の大飢饉の時に日本では約100万人が餓死ところが薩摩では殆ど餓死者が出なかった、これに驚いたのが将軍徳川吉宗で早速に全国へ普及、薩摩は人口が増え酒も飲め強国になって幕末の活躍に繋がった。

* コロンブスは世界の社会・経済システムを変えた（中原）メキシコの銀を世界に拡散させ価格を3分の一位に暴落させた、

歴史的には「商業革命」と呼ばれる程～幕末に世界の銀の暴落を知らずに日本は莫大な金を交換されて海外に持ち出された。

- * 東北はなぜ「米どころ」になったか（井沢） 稲は熱帯原産の作物で東北では冷害に強い早稲しか選択肢がなかった、昭和初期に並河成資という新潟県農業試験場の技官が早稲で尚且つ美味しい米を作るろうと思ひ立ち昭和6年に完成、残念ながらその技術は戦後まで日の目を見なかった。

2・26事件も東北の大飢饉が原因でこの技術があれば起きなかったかもしれない戦後の食糧難で漸くこの技術が見直され東北・北陸でも技術が生かされた

- * 専門バカを作らないために～常識を知らない専門家は危険（井沢）
～かつての司馬遼太郎さんが「坂の上の雲」を書いた時海軍の専門書は難解でさっぱり分からなかったが一流の専門家が書いた子供向けの本を読み、次に専門書を読んだらスルスルと頭に入ったと、学者バカは専門をやり過ぎて、その常識に暗くなる、このことは2千年以上前に孔子が論語で指摘「学びて・思わざれば即ち暗し、思いて・学ばざれば即ち危うし」と基礎学問の必要性をよく考えないと常識から離れて判断を間違ふと。

- * 土台のない家は使い物にならない（中原）
～アベノミクスを推進しているリフレ派は圧倒的に土台が足りないから当たり前に考えてできない事を専門に入り過ぎて「できる」と学者バカ・専門バカの世界。

- * 経済学の歴史を振り返ると重大な欠陥が見えてくる～経済学では「人は合理的な選択ができる」事を大前提にしているにも拘らずこの大前提を証明した学者は誰一人としていない。世界の経済構造や人間の価値観、ビジネスの形態など様々な要素が時間や時代の流れと共に変遷していく中で何故か経済学の世界ではそういう変化を一切無理してやり過ぎることが起こっている。

- * 哲学者は経済学の不備を看破していた～或る哲学者は例えば著書で「需要と供給曲線」については「時間の流れがないじゃないか」と

- * 大学を「遊び」ではなくて「勉強」の場に（井沢）
～日本の大学を世界のトップレベルに引き上げる必要がある。
～日本の大学生はもっと本を読まなくてはいけない、筑波大学では一生懸命勉強しないと卒業できない仕組みになっていて企業の評価も物凄く高い（中原）
明治時代は政府が近代国家建設の為に教育政策に力を注ぎ破格の給料で多数の優秀な外国人専門家を雇い入れる等とても教育熱心だった。

日本経済が発展して良くなるためには日本の大学を世界トップレベルに引き上げる事。世界トップレベルでの大学では歴史教育を疎かにしてはいけません、歴史をもっと勉強していけば日本の未来は明るい。

（完）